

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区経堂 1 丁目 2 5 番地 1 1 号
園名	世田谷区立わかさ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ホールもみんなの研究所～じっくり探求遊びができるホールの環境づくり～

<テーマの設定理由>

ホールという広い空間を使った遊びは、今までも行っていたが、物品や遊具が十分に用意できていないことで、じっくり遊びこめる環境になっていなかった。一人ひとりが木製遊具を使った構成遊びや、自然素材や廃材などを使った制作遊び、探索や運動遊びを幅広く楽しめるように環境を整え、0 歳児～5 歳児までそれぞれが遊びを楽しみ、深められると良いと考えたため。

2. 活動スケジュール

令和 7 年

5 月

- ・係内で方向性の検討と活動の見通しを話し合う。

6 月

- ・今年度のすくわくの取り組みについて、全体共有した上で、方向性を話し合う。
- ・各クラスが、テーマに沿った遊びの実現のために必要な遊具を考え、予算内でリストアップする。

7 月～

- ・係が中心となり、各クラスの購入するものを決定し、順次発注を開始する。
- ・届いた遊具を、まずはクラスで遊んでみる。
- ・遊びの見通しが立ったところで、順次遊具をホールに持って行って大々的に遊ぶ機会を設ける。(幼児中心)
- ・縦割り(異年齢児)でお互いに刺激を受けながら、たっぷり時間を使って構成遊びを楽しむ。

令和 8 年 2 月～

- ・ホールでの遅番の実現を目指して話し合いを重ねる。(→次年度に持ち越し)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・色や形、大きさの異なる積み木など、構成遊びを楽しむ中でイメージ遊が広がり、深めることのできるような木製遊具や運動遊具の導入。
- ・ホールの収納の仕方を職員で改めて考え直し、必要なものと不要なものを整理する。
- ・子どもの「やりたい」にすぐに答えられるように、収納用品を揃え、分かりやすく、出し入れしやすい環境設定にした。
- ・可動式の造形棚を購入し、保育室でもホールでもどこでも製作遊びが楽しめるように、子どもたちにとって使いやすい方法を検討。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

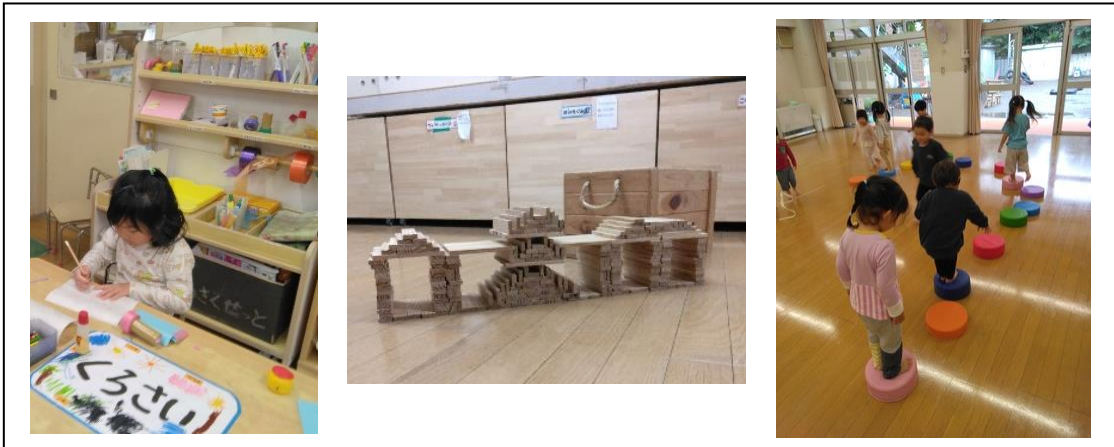
- ・ホールでさまざまな種類の木製遊具を使って、大々的に構成遊びを楽しむ。
- ・日常保育の中で、子どもたちが自由に製作遊びを楽しめるように、造形棚をクラスに設定して遊んでみる。
- ・形や大きさの異なるマットを組み合わせ設定し、体の動かし方について、遊びながら探求する。
- ・キッチン台や道具を使ってままごと遊びをじっくりと楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

大きさの違う半円形の積み木を、自分が見たアニメに出てきた物に似ていると気が付くと「ガリバートンネルが作れるかも！」と自分の思い描くものを積み木の形や大きさの違いから構想を考えて作ってみる姿があった。また、保育士が子どもとは異なる積み木の積み方をやって見せたことで、新しい積み木の使い方に気が付き「先生、お城を作ったんだ！どんな風に積んだか知りたい？」とこれまでとは異なる遊び方に気が付いてそれを自分なりに工夫して発展させる姿があった。

丸マットを使うことで、平たいマットだけの時にはなかった、足と腕をそれぞれ交互に動かしながら友だちの真似をしてみたり、友だちとはあえて違う動きをしてみたりと体の動かし方を楽しみながら探求する姿も見られた。

乳児クラスは、ままごとキッチンコーナーが充実したことで、一人でじっくりと遊ぶ時間や、他児とのごっこ遊びを楽しむ様子が多く見られるようになった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

ホールの押し入れの使い方を全面的に見直した。収納の工夫により、マットや遊具が取り出しやすくなったことで、乳児、幼児それぞれがホールで遊びやすくなった。また、積み木などの木製遊具が充実したことで、構成遊びの幅が広がり、時にはホールで作り上げた作品を残し、翌日まで継続して遊べるようにしたことで、子ども達が楽しみをもって登園し、じっくりと探求しながら遊ぶ時間を持てたことがよかったと感じる。また、特に乳児は、遊びの遊具が充実したことで遊びながら身体の使用方を工夫したり意欲が高まったりする様子が見られる。今後も年齢に合った設定の仕方を工夫しながら、全身運動を楽しんでいけるように援助していきたい。

ホールで大々的に制作活動をすることや、ホールでの遅番保育の実現など、実践に向けて準備中のこともあるので、引き続き日ごろからホールをより有効に使いながら、子どもたちがのびのびと様々な活動を楽しめるように話し合いを進めていく。